

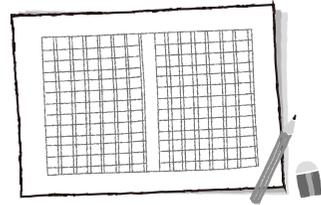
就職試験 ジャーナル

第42巻 第3号
2021年3月8日発行

特集

作文試験の傾向と対策～苦手克服と試験合格のポイント～

「文章を書く」ことが苦手な生徒は少なくない。しかし、就職試験における「作(論)文」は、面接試験とは別の角度から、生徒の本質を知る重要な試験であるため、文章力の向上は、重要な指導のポイントとなる。そこで今回は、就職試験における「作文」と、その攻略法について考えてみたい。



採用試験における作文試験

●作文試験のねらい

作文試験は、「文章による面接」ともいわれ、筆記試験や適性試験では測ることのできない受験生のひとりとなりを読み取ろうとするねらいがある。受験生がどのような人物かは、直接会って確かめることが一番であるが、面接試験で一人ひとりに十分な時間を割くことは難しい。よって、採用担当者は、面接で実際に話してみた感触と、作文から読み取った人物像を総合して採否を判断する。

作文には文書力だけでなく、適性や興味、ものの考え方、性格や教養などさまざまな面が現れる。それは、書かれた内容からだけでなく、文字の書き方の丁寧さからもうかがい知ることができる。単なる学力だけでなく、人物を重視する企業は年々増えており、作文試験の結果が合格に占めるウェイトも高い。作文を軽視しないよう指導しておきたい。

また、入社してからも文章力は必要とされる。企画書・報告書・依頼書など、文書作成は日常に行われる。誤字・脱字がないことはもちろんのこと、自分の考えをわかりやすく伝える表現力は社会人だからこそ求められるのである。試験対策だけでなく、社会人の教養として、文章で自分を表現できるようにトレーニングを積み重ねておきたい。

作文試験の傾向と対策

●作文試験の傾向

作文試験は、決められた課題について、一定の字数・時間のもとに書くケースがほとんどである。内容の独創性や文章テクニックを見るものではなく、あくまでも企業にとって採用したい人物であるかどうかを知るために課されるのである。

したがって、課題については、変わったもの、難解なものはほとんど出題されず、分野も限られている。よく出される課題は、①学校生活に関すること、②社会人・職業人となるにあたって、③自分について、④社会一般のこと、⑤抽象的なこと、の5つに大まかに分類される(資料1参照)。

字数は600～800字程度、制限時間は30～60分程度というところが一般的である。原稿用紙は横書きが多くなっているが、企業によっては縦書きのところ、レポート用紙のようにA4判の紙に罫のみが印刷されているところもある。

●作文試験の注意点

(1)課題のねらいを読み取る

いくら巧みな文章でも、出題意図と外れていては評価されない。たとえば、「高校生活の思い出」という課題であれば、「どの程度積極的に高校生活を送ってきたか」を採用担当者は知ろうとしている。ただし、「○○がおもしろかった。△△を

資料1 ●よく出題されるテーマ

<p>学校生活に関すること：友人、学校行事、クラブ活動、先生など、学校生活を通して学んだこと、感銘を受けたことなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活を振り返って ・高校生活の思い出 ・高校生活で得たもの ・高校生活で力を注いだこと ・クラブ活動と私 ・残りの高校生活について ・高校生活で印象に残ったこと ・私にとっての学校生活の意義
<p>社会人、職業人となるにあたって：いずれは社会に出て職業人となっていく。それに対する心構え、仕事に対する考え方、志望動機、入社後の抱負など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての抱負 ・社会人としての心構え ・こんな社会人になりたい ・私にとって仕事とは ・私の職業観 ・会社に入ってやりたいこと ・志望動機 ・社会人になるにあたって思うこと
<p>自分のこと：自己PR、将来の抱負、興味をもっていること、夢中になっていること、得意なことなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の夢 ・○年後の私 ・私のセールスポイント ・私が熱中したこと ・私の友人 ・私の将来設計 ・今一番関心があること ・私の得意なこと ・私の趣味 ・最も印象に残っていること
<p>社会一般のこと：政治、経済、環境など、社会で起こっている出来事や現象など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近のニュースで関心をもったこと ・現代社会に望むこと
<p>抽象的なこと：「友情」など個人的なもの、「責任」など社会性をもったものに分類される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由 ・希望 ・感動 ・友情 ・一冊の本 ・責任 ・チームワーク

して楽しかった」と『思い出』を並べただけでは、課題に十分にこたえたとは言い難い。

作文試験では、出来事・感想だけでなく、その経験を通じて何を学び、今後にどのように生かしていきたいと考えているかを担当者は知りたがっていることを、常に意識しておくことが大切である。

(2)分量

作文は、内容だけでなく規定の字数で書けたかどうかという点も評価の対象になる。規定よりも少なすぎると、いくら内容がすばらしくても総合評価は低くなってしまう。与えられた分量の8割以上は書くようにしたい。

いきなり600字とか800字の作文を書くことが難しいと感じる生徒に対しては、最初は50字、100字といった順にレベルアップを図りながら、字数の感覚をつかんでいかせたい。

最終的に、制限時間内に規定字数の作文が書き上げられるよう、少しずつトレーニングを重ねていくことが大切である。

(3)原稿用紙の使い方

タイトルの書き方や氏名の記入方法など、原稿用紙の使い方を知らない生徒もいるので、基本的なルールをしっかりと身に付けさせたい。書き方の基本ルールについては、資料を作成して配布するとよい(資料2参照)。

「書く」力を育てる

●作文コンプレックスの払拭

「きちんとした長い文章を書くのは苦手」という生徒が多いようだ。与えられたテーマについて、自分の考えを理路整然とまとめることが苦手なのだという。手紙や論文といった、決まりののった文章を書く機会が少ないためか、作文試験で「どう書いていいかわからない」「自分には作文力はない」と『苦手』のレッテルを貼ってしまっている。

そんな生徒も、TwitterやLINEなどのSNSを駆使し自分を表現することについては抵抗がないというケースが多い。書くこと自体は嫌いではないのである。そのあたりを上手にくみ取って、生徒たちの作文コンプレックスを取り除くことが、指導側の大きな課題となる。

●練習を重ねることで身につく「書く力」

書くことへの苦手意識を取り除き文章を上達させるには、何よりもまず「書く機会」を多く与え、書くことに慣れさせることが第一歩となる。

作文試験では、奇抜な内容や表現の技巧に凝る必要はなく、素直な言葉で相手に自分の気持ちを伝えていけばよい。「ルールが多くて難しい」というイメージを持っている生徒もいるが、自分の意見をわかりやすく正確に伝えるための大事な決

まり事であると認識させ、練習の時から意識させることが大切である。

●日頃の対策

先に述べた通り、書くことへの苦手意識を取り除くためには、何度も書くことが重要である。書き慣れることで作文力は上達していくのである。

①短い文章から徐々に字数を増やして書く

今日あったこと、見たこと、感じたことなどを書くことはSNSなどで普段からしていることであり抵抗は少ないだろう。まずは時間無制限・少ない字数から始め、徐々に長い文章を書くことに慣れさせていく。ただし、作文の練習として行わせる場合は書き言葉で文章を作ることを意識させたい。友人同士のやり取りとは違う言葉遣い・表現に慣れることが大切である。

②新聞のコラム・社説を書き写す

新聞のコラム・社説は文章の構成・表現を学ぶのに適した身近な題材である。短い文章の中にも起承転結があるので、書き写すことで文章の構成や流れ、言い回しなどが自然と身に付いてくる。慣れてきたら、自分の言葉でまとめ直させてみるとさらによい。

③「題材メモ」を作る

試験では制限時間内に作文を完成させなければならず、内容をじっくりと練る時間はあまりとれ

ない。しかし、出題されるテーマはある程度決まっているため、自分の長所・短所、学校生活の出来事、社会人としての抱負などをまとめさせておくことをお勧めする。その際、ただ項目を列挙するのではなく、どのように感じたか、何を学んだかまで踏み込んでまとめさせると文章の練習にもなる。

④他人に読んでもらう

作文試験では、受験生と面識のない担当官が採点するので、いかに詳しく正確に相手に伝わる文章が書けるかがポイントとなる。そのためには、書いた作文を他人に読んでもらい、添削・評価されることで、よりわかりやすい作文が書けるようになる。

添削指導は、生徒と直接面識のない先生が担当すればより客観的に評価できるだろう。その際、前回と比較して進歩した内容であれば具体的にほめるなど、生徒に自信をつけさせるよう指導していただきたい。



資料2●「原稿用紙の使い方」チェックポイントの一例

20

①	私	の	長	所	は	、	②	「	元	気	で	明	る	く	誰	と	で	も	話	が	
	で	き	る	」	こ	と	で	す	。②												
①	中	学	校	に	入	学	し	た	時	、	知	り	合	い	が	い	な	く	て		
	不	安	だ	っ	た	私	に	、	③	一	人	の	女	の	子	が	話	し	か	け	て

①書き出し、段落の始まりは1マス目を空ける。

②句点、読点、カッコは1マスを使って書く。ただし、会話の終わりの句点と閉じカッコは、同じマス目に書く。

③数字は、横書きでは算用数字(1、2、…)、縦書きでは漢数字(一、二、…)を使う。2ケタ以上の算用数字は、1マスに2字入れる。

※原稿用紙の向きにも注意(上の例は横書きの原稿用紙)。

横書きの原稿用紙をわざわざ縦に使って書いてくる人がたまにいます。



採点部より



今号の
イチオシ教材

文章を書くのが
ニガテな生徒へ！

作文対策教材特集

作文ワーク&添削 全6テーマ

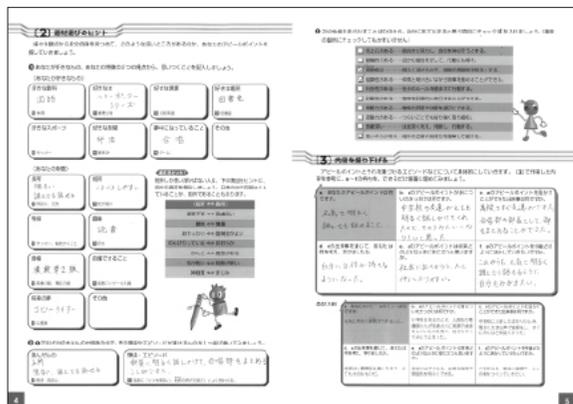
実施時間● [まとめワーク] 1テーマ 50分程度
[作文執筆] 45分 (600字)
添削料● 1テーマ 1,120円 (ワーク代・税込)

「作文」の基礎力養成から民間就職対策まで
ステップを踏んで文章作成のプロセスを学べます

事前学習教材「作文まとめワーク」は、そのテーマのとらえ方をはっきり示した上で、漠然とした考えを整理して自分らしい文章が組み立てられるよう、ステップごとにやさしくまとめています。順を追ってワークを埋めていくことで、自然と作文を仕上げられます。

また、書き上げた作文は、専門のスタッフが、作文の基礎に重点を置いて丁寧に添削し、文章の良い面を伸ばす視点でコメントするので、生徒の書く意欲を高めます。

さらに、課題に取り組む際に自分自身・高校生活を振り返ることで、自己分析や面接試験対策にもお役に立ていただけます。



▲「作文まとめワーク」(A4判・8ページ)



『作文ワーク&添削』 就職志望者向けテーマ

●私のアピールポイント

言わずと知れた作文試験の最頻出テーマ。面接対策としても有効な、一度は取り組んでおきたい課題です。

●高校生活で最も印象に残ったこと

高校3年間を振り返るのに最適なテーマです。

●私はこんな社会人になりたい

志望動機につながるテーマ。社会人としての自覚を促すこともできるので、内定後に取り組むのも効果的です。

基礎小論文ワーク&添削 ワーク①/ワーク②

実施時間● [まとめワーク] 1テーマ 50分程度
[小論文執筆] 45分 (600字)
添削料●各ワーク 1,120円 (ワーク代・税込)

ワーク①は志望理由のまとめに
ワーク②は時事問題の対策にも

書く力を身につける 作文ワークブック

体裁● B5判・72ページ
定価● 550円 (税込)

文章を書くことが苦手な生徒も
無理なく学べる自学自習教材

★ご検討用実物見本を無料進呈!お気軽にご請求ください。☎ 03-3355-1801 実務教育出版 教育教材事業部

『就職試験ジャーナル』 バックナンバーについて

本年と前年の『就職試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材 NAVI」でご覧いただけます。

高等学校のTOPページ (<https://www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/>)より、「活用情報(モデルプラン・指導情報など)」→「指導情報」をご覧ください。